

論文の内容の要旨

論文題目：モンゴル国における幼児・学童期の教育と親の教育関与の関係

氏名：中村絵里

子どもが生まれてから最初に出会う教育者は、親である。そして、多くの子どもにとって初めての教育機会の場が、家庭である。教育の質的課題克服のためには、行政や学校側のアプローチのみならず、親によるアプローチに一定の効果がある。先行研究では、親による教育関与が子どもの学業達成・教育達成に寄与すると論じられており、その内容には、家庭での読み聞かせ、学習補助、教育の重要性を伝えたり学校での出来事を話したりといった教育関心、会議や行事などの学校参加、経済的支援、進路選択への助言などがある。また、教育と家族内資本との関連を明らかにした研究 (Coleman 1988) もあり、具体的には、「財的資本 (physical capital)」、「人的資本 (human capital)」、「社会関係資本 (social capital)」の3つが定義されている。しかし、多くの研究が欧米や東アジアの一部の先進国でおこなわれており、開発途上国では、「家庭内」に着目した親の教育関与の研究は、管見の限り少ない。教育開発の研究では、教員や親への調査を通して教育の阻害要因を検討し、それらを解消するための施策が講じられてきた。また、リテラシー教育や学校参加等の特定の関与を検討した先行研究はあるものの、多角的な関与に対する要因については具体的な検討がなされてきたとはいえない。そこで本研究では、教育の質的課題を抱えるモンゴル国 (以下、「モンゴル」) において、幼児・学童期の子どもに対する親の教育関与の有り様と子どもへの影響を検討し、関与の要因を明らかにすることを目的とした。

モンゴルは、国全体の 19.2% の世帯が伝統的な遊牧を生業としている。地方の遊牧民は、季節ごとに家畜と共に移動生活を送るため、遊牧家庭の子どもは幼稚園などの就学前教育機関に通うことが難しい。従来、地方の不就園児の教育は各家庭に委ねられ、遊牧文化に根ざした家庭教育の伝統により、親が子どもの教育に関わることは社会文化的に受け入れられてきた。しかし、ポスト社会主義の教育混乱期の影響から現在の幼児・学童の親世代には、十分な教育を受けていない層がいることや、家庭内の教材不足などの問題もあり、小学校入学と子どものスムーズな教育移行を念頭に置いた就学レディネスにつながる教育関与には課題がある。他方、首都ウランバー

トルでは、都市への一極集中化が深刻な問題となっている。1990年代の民主化移行期から近年にかけて、寒害や冷害で家畜を失った遊牧民が、職を求めて首都へ急速に流入しが、安定した職を得ることは難しく、多くの貧しい家族が、社会サービスが不十分な新たな土地に定住した。これらの地域はゲル地区と呼ばれ、急激な生徒数の増加に伴い学校・教室数が不足し、多くの学校が2部制や3部制を採用している。ゲル地区では、学校での学習時間と教育機会が確保できず、教育の質の低下が課題となっている。本研究では、地方と都市部が抱える教育課題について、検討をおこなった。

本論文は、全9章で構成される。序章では、問題の所在と研究の目的を示し、リサーチクエスチョンを4つ設定した。第一に「幼児期から学童期の子どもに対して親がどのような教育関与をおこなっているか」、第二に「主体的な学びを促す親の関わりはどのようなものか」、第三に「親の教育関与が子どもの学校教育に与える影響はどのようなものか」、第三に「親の教育関与の規定要因は何か」。そして、研究の方法と論文の構成を提示し、さいごに研究の意義を述べた。

第1章では、国際的な教育課題とモンゴルの教育状況を提示し、なぜ幼児期から学童期に親による教育関与が求められるのかを論じた。第2章では、**parental involvement** に関する国内外の先行研究をレビューし、教育関与と家族の資本との関係を検討した。第3章では、幼児期には、子どもの主体的な学びが重視されることから、就学前教育機関での子どもの学びと他者との相互作用について考察をおこない、家庭での学びと教育の媒介者となる親の役割について、モンゴルの文脈から論述した。

第4章から第7章では、モンゴルでおこなった4つの事例研究を記述した。モンゴル固有の親の教育関与に関する考察をおこない、家庭での教育関与の有り様と課題を明らかにした。さらに、教育関与の要件を家族内資本および教育アスピレーションとの関連から検討した。

終章では、序章で提示した4つの問いの答えを見いだし、本論文の総括をおこない、さいごに本研究の限界と今後の課題を述べた。

第一の問い「幼児期から学童期の子どもに対して親がどのような教育関与をおこなっているか」に関して、幼児期の教育関与では次のことが明らかとなった。地方の遠隔地と首都ゲル地区の家庭で共通していたのは、親が、読み書き計算を教えたり、伝統的な玩具（羊のくるぶしの骨）を用いて家族で遊んだりといった教育関与をしていたことである。都市部では幼児向けの玩具が入手しやすい環境にあることから、ブロック、ルービックキューブ、パズル、童話の本、IQの本などを利用しているとの回答もあった。一方、地方では、都市部と比較して幾つかの課題があることがわかった。地方には、教具となるような玩具、絵本、ワークブックなどの流通が少ないこと、幼稚園へのアクセスが難しい遊牧民家庭では、幼児教育に関する情報の入手が容易でなく、親がどのように子どもに学習指導したら良いかわからないことである。こうした課題に対して、国際的な支援で幼児教材の貸出や情報提供がおこなわれるようになり、この数年間で、地方でも、絵本や玩具などが徐々に利用できるようになった。遠隔地に暮らす不就園の遊牧民の子どもに対して、各家庭で学習支援をおこなう環境が整ったことで、親の学習意欲と教育アスピレーションが向上したことも確認できた。

また、就学後の教育関与については、地方では、入寮したり、学校の近隣に居住する祖父母や親戚の家で暮らしたりする子どもが多くなることから、親が直接的な関与をおこなう頻度が減る

ことがわかった。首都のゲル地区では、親の教育関与として最も頻度が高かったのは、「教育が将来役に立つことを話す」であり、「学校の出来事を話す」「将来の夢について話す」も、比較的高い頻度でおこなわれていた。一方で、「勉強や宿題を教える」のは頻度が最も低かった。

第二の問い「主体的な学びを促す親の関わりはどのようなものか」に関して、先行研究から子どもの学びの媒介者となる親の役割を引き、モンゴルの文脈で検討した。モンゴルでは、生活のなかにある様々な遊びの要素を考慮しながら教具を特定し、定められた目標を理解し、親子の相互作用によって、子どもの主体的な学びが促進されることを明らかにした。

第三の問い「親の教育関与が子どもの学校教育に与える影響はどのようなものか」に関して、地方では、親の関与によって、子どもの就学レディネスが向上したことが明らかとなった。さらに、親への影響として、入学以前から、親と小学校教員とのコミュニケーションが増え遊牧世帯の親が学校と寮を信頼するようになったこと、親自身が教育の重要性の認識を高め親も学ぶ意欲を持つようになったこと、育児に自身が持てるようになったことなどの意識変容が見られた。首都のゲル地区では、子どもの入学前に教育関与をおこなった群とおこなわなかった群で比較した。2年生の保護者で教育関与をおこなわなかった群は、自身の子どもを客観的に評価して「学校の勉強が難しくついていけない」と感じる傾向が有意に高かった。しかし、5年生の保護者については、両群に有意な差は見られなかった。

また、大学生の調査結果から、幼少期の家庭の教育関与が、教育達成に与えた影響も明らかになった。教材など資源が乏しい家庭環境であっても、親や祖父母が計算やモンゴル語の学習支援を熱心におこなっていた。小学校中退など親の就学年数が短い場合には、年上のきょうだいが勉強を見ていた例もあった。そのほか、「長く教育を受けた方が良い」「教育を受けると豊かになれる（ロールモデルの提示)」「勉強をしないとおとなになって貧しい生活をするようになってしまう」「大学には行った方が良い」「夢を叶えるために」など、親の教育アスピレーションが読み取れる言葉や態度を、学童期から大学進学に至るまで、しばしば受けていたことが明らかとなった。こうした教育期待を示す言葉がけは、実際に、進学先の選定や進学するかどうかの決定要因にもなっていたことが調査からわかった。

第四の問い「親の教育関与の規定要因はなにか」に関して、地方と首都ゲル地区で共通して得られた知見として、親の教育関与には、「社会関係資本」と「教育アスピレーション」が強い関連を示し、「人的資本」は、一部の事例で関連が見られ、「財的資本」は、「社会関係資本」との組合せによって要因となりうる可能性が示唆された。したがって、既有事実である「人的資本」と「財的資本」よりも、外的な要因によって向上する見込みが高い「社会関係資本」と「教育アスピレーション」が、要因として関連することが明らかとなった。

本研究の意義は、途上国の親に着目し、子どもの教育の促進要因となる親の関わりには、社会関係資本と教育アスピレーションが関連あることを明らかにした点にある。脆弱な立場にある親のなかでも、今後、これらの資源を向上させる施策を講じることで、教育の質の改善に資することが可能だと示された。本稿では、地方と都市部の幼児・学童期、そして大学生を対象に調査したが、都市部の裕福な家族や中等教育段階の子どもの教育については、十分に検討することができなかった。今後、対象地域とレベルを広げ網羅的な研究に発展させることを課題とする。